

御文

一文のほりをこえぬもの、
十丈二十丈のほりをこつべきか

(種々御鑑舞御書 新版1229ページ16行目/全集912ページ11行目)

通解

一文の堀を越えることのできない者が、
どうして十丈・二十丈の堀を越えること
ができるでしょうか。

池田先生の言葉

日々、足元を固めていくことです。
(中略)今の眼前の課題に全力で取り
組み、一つ一つ着実に勝ち進んでいく
以外にありません。今日やるべきこと
は、必ず、今日やるんです。今なすべ
きことに至精魂を注ぎ込んでいくん
です。すると、そこから新しい道が開
かれていくものです。

(小説『新・人間革命』第26巻「奮迅」の章、398ページ)

御文

日蓮一人はじめは南無妙法蓮華經と唱えしが、一
人・三人・百人と次第に唱えつたつるなり。未来も
またしかるべし。これ、あに地涌の義にあらずや。
あまつさえ、広宣流布の時、日本一同に南無妙法
蓮華經と唱えんことは、大地を的とするなるべし。
ともかくも法華經に名をたて身をまかせ給つべし

(諸法実相抄 新版1793ページ10行目/全集1360ページ9行目)

通解

初めは日蓮一人が南無妙法蓮華經と唱えたが、一人、三
人、百人と、次第に唱え伝えてきたのである。未来もまた
同じであろう。これこそ「地涌の義」なのである。それは
かりか、広宣流布の時、日本中が一同に南無妙法蓮華經
と唱えることは大地を的とするように確かなことである。
ともかくも、法華經に名を立て、身を任せにいきなさい。

池田先生の言葉

広宣流布といっても、
遠くにあるものではなく、
身近にあるものなんです。
まず自分自身を信・行・学
で磨くこと。家庭を盤石
にすこと。そして、地域
に貢献できる力をつけて
いくこと。地道に努力を
重ね、一つ一つ勝ち取っ
ていくのになにに信心がある
んです。

(小説『新・人間革命』第29巻
「源流」の章、353ページ)

御文

わざわいも転じて幸いとなるべし。
あいかまえて御信心を出だし、この
御本尊に祈念せしめ給え。何事か成
就せざるべき

(経王殿御返事 新版1633ページ9行目
全集1124ページ14行目)

通解

災いも転じて幸いとなるで
あろう。心して信心を奮い起
こし、この御本尊に祈念しな
さい。何事か成就しないこと
があるつか。

池田先生の言葉

素直な心で御本尊にぶつかっていけばいいんです。御本
尊は、大慈悲の仏様です。自分自身が願っていること、悩
んでいること、希望することを、ありのまま祈っていくこ
とです。苦しい時、悲しい時、辛い時には、子どもが母の
腕に身を投げ出し、すがりつくように、「御本尊様！」と言っ
て、無心にぶつかっていけばいいんです。御本尊は、なん
でも聞いてくださる。思いのたけを打ち明けるように、対
話するように、唱題を重ねていくんです。やがて、地獄の
苦しみであっても、嘘のように、露のごとく消え去ります。

(小説『新・人間革命』第11巻「開墾」の章、138ページ)

御文

行学の二道をはげみ候べし。行学
たえなば仏法はあるべからず。我も
いたし、人をも教化候え。行学は信
心よりおこるべく候。力あらば一文
一句なりともかたらせ給つべし

(諸法実相抄 新版1793ページ3行目/全集1361ページ11行目)

通解

行学の二道を励んでいきなさい。行学が
絶えてしまえば仏法はない。自分も行い、
人をも教化していきなさい。行学は信心か
ら起こる。力があるならば一文一句であつ
ても人に語っていきなさい。

池田先生の言葉

自分という小さな殻にこもり、自身の幸福だけを願って
いたのでは、本当の幸福をつかむことはできない。自分も、
周囲の人も、自他ともに幸せになっていってこそ、真実の
幸福です。ゆえに、人のため、友のために法を説き、幸福
への道を教えていくことが大事になります。その慈悲の生
き方こそが仏法であり、そこに自分の幸せもある。

(小説『新・人間革命』第5巻「歡喜」の章、116ページ)